

見た目による影響についての研究

1 目的

見た目によって判断にどう影響が出るのかを調べるため

2 内容

多摩大学の喫煙者を対象にタバコを判別ができるのかの実験をしました。内容としまして、タバコの味が似ている2つを用意し、一つは値段が高い方であり、もう一つは値段が安いを用意しました。そして10名の方に吸ってもらい、どちらが美味しいかを答えてもらうことをしました。

3 方法

① 安いタバコの箱に高いタバコを入れているもの

高いタバコの箱に高いタバコを入れているもの

② 安いタバコの箱に安いタバコを入れているもの

高いタバコの箱に安いタバコを入れているもの

→10名の方に吸ってもらい、どちらが美味しいかを判断してもらう

4 結果

①でも②でも高い箱に入っているタバコの方が「味がしっかりしている」「美味しい」などの言った高い評価がされたのであった。

そして①の実験の時に安いタバコの箱に入っている高いタバコを吸った際には、「あまり味がしない」「あまり美味しくない」などの評価がされました。

5 考察

本の内容の実験や私たちが行った実験でも値段が高い方の外見に入っているものの方が高い評価がされたのである。この二つの実験で外見が重要であることが証明することができました。

本の最後に言っている通り、人でもものでも外見が重要であることがわかりました。

それによって人はノンバーバルコミュニケーション(非言語コミュニケーション)が人は重要であることが言えることがわかりました。